

官 民 合 同 会 議 資 料

(2009年10月19日)

2009年10月19日

パラー日系商工会議所

パラー州経済の動向

I. 2009年度の現状及び動向

- (1) パラー州工業連盟 (FIEPA) 中央国際取引局 (CIN) によると本年度上半期 (1月～8月) の州内の工業生産実績は、国内全般では下落しているにも拘わらず5, 6月に10. 2%増加 (金属の+20. 4%が貢献) しながら、全体的には1-8月の実績は、前年比▲7. 56%となり、世界金融危機の影響は避けられなかった。

ただ、2008年輸出額106億ドルに対し、2009年度1-8月実績53億ドルと大きく落ち込み、また、輸入額も2008年度10億ドルに対し、2009年1-8実績6億ドルとなっているが、輸出入バランスは、ミナスジェライス州、マツグロソ州に次で国内第3位 (昨年は2位) となり、輸出入収支は、昨年引き続き好調となっている。

今後は世界金融・経済の回復 (特に米国・中国・欧州) が、当地の輸出入にも大きな変化と影響を与えるものと考える。

- (2) パラー州の本年度輸出の84.07%は、前年度と同様、鉱工業であり、鉄鉱石、ボーキサイト、アルミ地金等は、一昨年からの世界市況の好転で着実に輸出を拡大していたが (前年比40.92%増) 2009年度に入り、一転して大きく後退した (別添、主要品目別輸出 ベスト10、1-8月実績を参照) 鉄鉱石のみ20. 8%増加したが、他は▲16. 6～▲79. 4%となっている。

- (3) 林業はパラー州にとって、雇用求心力の高い重要な産業のひとつであったが、一昨年から昨年度にかけてのドル安に加えて、世界的な環境保護の

動きと国内でのIBAMA（ブラジル環境再生天然資源院）の伐採規制強化により、大変厳しい事業環境を強いられ、中小はもとより、外資系を含む大手までも事業の撤退を迫られ、日系会社でも、昨年9月初旬パラ州で30年以上、現地優良企業として活躍してきた大手企業もついに破綻に至り、今年度10月初旬には、当地業界第3位の米国系会社も破綻、今後も引き続き厳しい事業環境が続く見込みである。

- (4) 州内生産のシェアが、11,14%ながら、成長著しいのは牧畜業（生肉牛）と大豆である。特に生肉牛に関しては、数年前まで1%のシェアにも満たなかった業種が、ベネズエラやレバノンにも輸出し、今年度に入っても1-8月実績は14%の増加と健闘している。

しかしながら、大豆、デンデー椰子（パーム油）は、昨年第3四半期までは、大変好調に推移したが、その後、国際金融危機の影響も受け、更に国際価格の大幅な下落（50%）により、大きく後退したが、第2四半期に入り、市況が好転しているもリアル通貨高により、厳しい状況となっている。また、両産品とも、国際市場商品であるという特性を持つが、何れも環境破壊や土地紛争などの原因になるというマイナス面も併せ持つため、今後の国内、世界情勢で非常に左右されると考える。一方、その他冷凍パスタ、冷凍エビ、ブラジリアンナッツなどの輸出は昨年引き続き、低迷に推移し、大豆、パーム油と同様、今後の国際市況と為替レート次第となる。

- (5) 全体的には、昨年9月以降アメリカのサブプライムローンに端を発した金融危機によって、ここパラ州でも各企業への悪影響は免れず、今年に入っても、銀行の貸し渋り、一方的な貸し剥がしが続いており、輸出企業が比較的容易に資金手当てができた為替前売り（ACC）も困難となっており、中小企業の倒産も増加しているが、建設部門は引き続き、好調でビル建設（高級アパート・ショッピングセンター）等は増加している。

II. 2009年の展望

- (1) パラ州経済は上述したように昨年のアメリカの金融危機の影響を受け、予想通り、今年に入り、各産業への本格的な影響が出始めているが、今後とも大手企業含め、大変厳しい事業環境を強いられるであろう。特に銀行借入れをしていない企業では負担は軽いですが、融資を受けていれば（ほとんどがそうであるが）ブラジルは、各国と異なり、高金利政策維

持であるため、多くの企業が金利負担増加のため、運転資金が非常に厳しくなることが予想される。現実には中小企業の倒産の増加となって現れている。また自己資金で経営している企業でも、今後、世界経済と市況の変化・低迷で商品在庫の増加、資金回転の悪化などで更に厳しい黒字倒産と言う厳しい局面あり得るだろう。

- (2) 一方、2006年初、パラ州知事（PT）（アンナ ジューリャ カレ ッパ）に政権が変わり、同政党である連邦政府との連携強化でパラ州の発展が期待されたが、約3年経過するも、現在のところ大きな変化はなく、昨年全国的に加熱していた不動産部門（高級ビルの建築）も一服の感が有り、また、自動車販売も今年3月に自動車に対する公課の免除で販売が回復していたが、ここに来て、停滞し始めきている。
- また、パラ州産業の80%以上が天然資源の輸出に依存している以上、港湾処理能力不足問題は経済発展の障害となっており、従って、早急に国、州レベルでの港湾、関連施設のインフラ整備などが求められるも、残念ながら、現状は遅々として進まず、余り期待できないが、民間部門の活力に期待したい。

III. パラー州経済の特徴と課題

- (1) パラー州経済、産業構造は、上述の通り鉱業、林業、漁業など天然資源への依存が高いのが特徴である。しかも、この資源はほとんどが付加価値を付けず、原料で輸出される。このため地元裾野産業への波及効果や雇用の増加などの貢献度は低いのが現状であり、更にここに来て世界的な環境保護による影響も国内に波及し、現在、林業、畜産に（アマゾン地域での牧場牛の不買運動など）非常に厳しい環境にある。
- (2) これらの現状を打開する為には、様々なインフラ整備、人材育成などを官民一体になって開発事業を進め、抜本的な政策転換を図る必要があるが、この政策・対策に積極的に日系産業団体の力と行動で影響力を図り、地域社会の発展に貢献することが重要である。
- (3) 特に今年度は日本人アマゾン移住80周年記念行事も無事に終え、大きな課題で有った2世、3世へのバトンタッチも行い、この記念日を機会に今一度、日系人の現地との関わり、役目を再認識し、更なる地域の発展に貢献、寄与することに期待するものである。

(4) 補足：現在、パラード日系商工会議所が優先的に取り組んでいる事項を紹介したい。

- ① パラード州における「日本移民の日」の設定と法令化。
- ② プロジェクト トメアスー、トメアスー郡を「日本移民の拠点」として法令化を進め、次の項目を推進する。
 - ・ 都市交通、宅地、下水道等のインフラ整備計画。
 - ・ 日本語教育を含めた教育インフラの整備。
 - ・ 健康衛生・治安・日伯文化融合等のインフラ計画の推進。
 - ・ ベレン、トメアスー間道路のアクセス、新ルート計画の推進。
 - ・ 州政府・市役所・各経済団体との交流促進。
 - ・ 日本・ブラジル間経済交流促進プロジェクト。
 - ・ 国内外、商工会議所との情報交換による経済交流促進。
 - ・ JICA 関連プロジェクトへの協力。

以上

官民合同会議
2009年10月19日

パラー日系商工会議所

パラー日系商工会議所

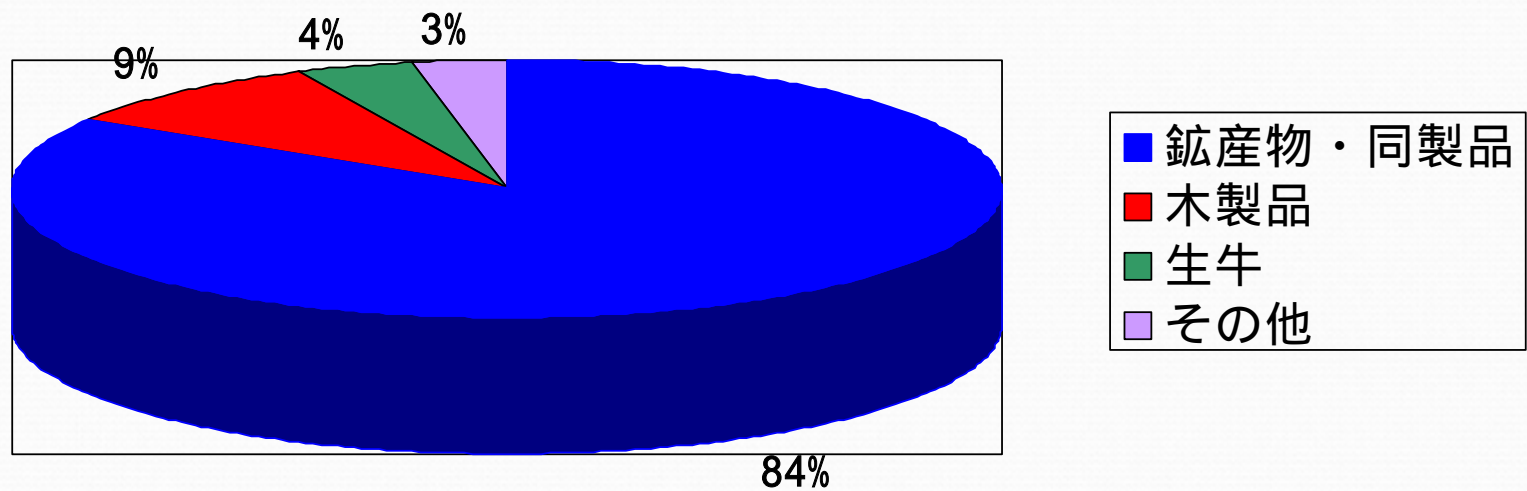
- 会員数 42社
- 進出企業 02社
- 一世経営社 07社
- 二世及び準二世経営社 33社

目次

パラ州経済の動向

- I. 2009年度の現状及び動向
経済全般 産業別輸出シェア 2008年
主要品目別輸出ベスト10
- II. 2009年の展望
- III. パラ州経済の特徴と課題

2008年主要産業別輸出シェア



主要品別輸出ベスト10 単位 US\$1,000

	品目別	金額2008	%	金額2009	%	前年比
1	赤鉄鉱	2,210,378,608	32.43	2,669,873,132	50.47	20.79
2	アルミナ	816,207,768	11.98	680,743,486	12.87	16.60
3	アルミニウム	810,346,537	11.89	459,320,325	8.68	43.32
4	鉄	557,657,854	8.18	188,544,674	3.56	66.19
5	銅	505,991,374	7.42	184,753,991	3.49	63.49
6	木製品	462,526,446	6.79	220,376,172	4.17	52.35
7	マンガン	402,279,988	5.90	82,775,955	1.57	79.42
8	カオリン	239,649,121	3.52	154,044,969	2.91	32.72
9	生牛	222,499,910	3.27	253,534,888	4.79	13.95
10	セルローゼ	176,938,745	2.60	73,509,158	1.39	58.46
	ピメント	48,549,815	0.71	33,414,697	0.63	31.17
	冷凍海老	12,203,077	0.18	5,016,323	0.10	58.89

パラー日系商工会議所 プロジェクト紹介

1. パラー州における「日本移民の日」設定法令化
パラー州議会で採決承認され州知事の決裁待ち。
2. プロジェクト・トメアスー
トメアスー郡を「日本移民の拠点」として法令化を進め、次の項目を推進する。
 - * 都市交通、宅地、下水道等のインフラ整備計画
 - * 日本語教育も含めた教育インフラの整備
 - * 健康衛生・治安・日伯文化融合等のインフラ計画の推進
 - * ベレン、トメアスー間道路のアクセス、新ルート計画の推進
 - * 州政府、市役所、各経済団体との交流促進



パラー日系商工会議所 プロジェクト紹介

3. 日本・ブラジル間経済交流 促進プロジェクト

* 国内外商工会議所との情報交
換による経済促進。

4. JICA関連プロジェクトへの協力



